

平成24年9月25日

## 「ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2013」

### 開催結果報告書

日本ソーラー・人力ボート協会  
実行委員会委員長 八木正生

#### 【開催結果概要】

開催日時	平成25年8月23日(金)・24日(土)・25日(日)
開催場所	公益社団法人日本モーターボート選手会常設施設 愛知県碧南市・勤労者青少年水上スポーツセンター
主催	日本ソーラー・人力ボート協会
共催	公益財団法人マリンスポーツ財団 公益社団法人日本モーターボート選手会
大会運営	ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2013実行委員会
後援	国土交通省、文部科学省、経済産業省、 碧南市、碧南市教育委員会、碧南商工会議所 碧南市観光協会、 一般社団法人日本マリン事業協会
協賛	古河電池株式会社 株式会社ジーケー京都 ヤマハ発動機株式会社 スズキ株式会社 株式会社ワイズギア ホクト工業株式会社 ニッパツメック株式会社
参加チーム	ソーラーボート&人力ボート : 13チーム(16艇) B・T・T競技(ボート綱引き): 18チーム
観客数	延べ約700名 (土、日の2日間)

#### 【開催状況報告】

##### 1. はじめに

今年の夏は猛暑が続いて開催期間中の健康管理が心配されていましたが、23日からは暑さも控えめになり、大会最終日には降雨の中での開催となりました。太陽が便りのソーラーボートにとっては競技マネジメントが勝負要因を大きく左右するレース展開となりました。

雨が降る中での大会は初めての経験であったが、ソーラー&人力ボートレース及び新種目のB・T・T競技(ボート綱引き)を含め全競技無事に終了ができました。

特に本大会から導入したB・T・T競技には18チーム参加の内、碧南市周辺の5チームが参加し、懸案の地元との連携強化及び来場者の増大に貢献する要因となりました。

## 2. 開会式

開会式には地元愛知県大村秀章知事及び、碧南市禰宜田政信市長から歓迎と激励のご挨拶を頂きました。体調を留意して参加できなかった当会会長の堀内浩太郎からは、参加選手に対し、改めて大会の意義と健闘を祈念するメッセージが届き、八木正生実行委員長から披露致しました。この大会の共催機関である公益財団法人マリンスポーツ財団岡村一臣常務理事、公益社団法人日本モーターボート選手会渥美敏男常務理事にもご臨席を頂きました。

引き続き、選手ミーティングを行い、今大会初めての種目であるB・T・T（ボート綱引き）競技についても競技規則やレースの方法について説明を行いました。

## 3. 競技場状況

大会初日は時折日差しもあり、風も少なく波も無く水面は恵まれたコンディションでありましたが、2日目は降雨が続き、ソーラーボートにとっては充電が追い付かず、エントリー種目の重点化選択などレースマネジメントが重要な勝敗の要因となりました。人力ボートは、猛暑を避けることができ白熱したレース展開を各部門で繰り広げられました。幸い、レースに支障をきたす雷や風波はなく競技は2日間とも、事故もなく無事に終えることができました。

陸上の会場では各チームのテントが昨年より増え、念入りなメンテナンスを繰り返すなど点検に余念がない風景が見られ、新技術駆使の「新水中翼船」の展示や協賛会社の展示品コーナーもあり来場者の興味を惹いていました。

## 4. 今大会のトピックス

### 1) B・T・T競技（ボート綱引き）の初登場

地元碧南市周辺からの大会参加チーム及び観覧来場者の増大を目的に、誰にでもできる新種目B・T・T競技（ボート綱引き）をプログラムに導入したところ、我が国初の新水上スポーツに18チームの参加エントリーがあり、予選はタイムトライヤル・決勝戦はトーナメント方式で優勝を争いました。この種目は1チーム3名がボートの乗り手、引手に分かれて早くボートをゴールに到着させることを争うゲームで、シンプルな競技ではありますが、わかり易い勝負に参加チームも見学者も十分楽しむことができたことから、水辺の安全な軽スポーツとして、更に進化させ全国的な普及拡大を図る様に努めることに致します。

### 2) 「新水中翼船」のデモ走行と展示

当会会長堀内浩太郎氏が考案開発し、金井紀彦氏製作・操船して僅か2馬力の船外機で20ノット（≒37km/Hr）以上の走行を可能にした夢のエコボートの試走と展示を行いました。軽量化と水中抵抗最小化を追求した工夫が随所に見られ、ボート愛好家の興味を湧き立てていました。

### 3) UMI協議会所属「海なでしこチーム」の初参加

公益財団法人マリンスポーツ財団及び国土交通省の計らいで「海なでしこチーム」が

本大会に初登場して、一般参加のチームの皆さんと共に人力ボートレースやB・T・T競技に参加し、華を添えて頂くことができました。初出場ながら全種目に出場し、其々完走した熱意に対し会長特別賞が贈られました。

## 5. 交流

新種目のB T T競技に地元の5チームが参加したこともあり、参加者及び来場者は前年より大幅に増加して関係者を喜ばせました。

24日のウエルカムパーティーには、禰宜田碧南市長はじめ、公益財団法人マリンスポーツ財団の笹川理事長・金子顧問もご出席くださり、選手の競技談義・技術談義の中に加わって頂くなど、会場は終始和やかな雰囲気笑顔と歓声が絶えないひと時を過ごすことができました。

## 6. 今後の課題

- 1) 参加チーム及び更なる来場者の増大
- 2) 地元ボランティア団体との連携・取り組み
- 3) 地元企業や団体との連携
- 4) 大会財政基盤の安定・強化
- 5) 増員した実行委員会の役割の明確化及び機能強化

等があげられるため、今後定例的に開催する実行委員会で検討・協議を重ねて充実と進化に努めます。

## 7. 終わりに

この大会のために御後援名義使用許可を頂きました関係機関の皆様に、ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2013が滞りなく終了できましたこと、感謝と共にご報告致します。

共催機関をはじめ、後援頂いた諸機関、協賛会社・協賛団体の皆様の絶大なるご支援やご協力を頂きましたお蔭で、無事終了できました。

参加チームの皆様とは次回大会での再会を笑顔の中で約束を頂きました。

ありがとうございました。